

まちの話題



第55回高知県市町村対抗駅伝競走

香美市△チームが5位入賞

室戸市から安芸市まで八区間、四五・五キロで競う『第五十五回高知県市町村対抗駅伝競走』が一月二十

八日に開催され、合併して初参加となった香美市では、Aチームが五位に入賞し、Bチームも二十二位に入る健闘をみせまし



香美市駅伝チームのメンバー

【結果】

五位△香美市
A（二時間三十一分二秒、大石一心・吉本拓末・横矢昇平・永田克久・中村祐介・川上正二・野町貴弘・窪田成幸）

二十二位△香美市B（二時間四四分五秒、中岡克和・大石啓太・明石健成・今西務・新谷祐治・前田透・時久政和・小松祐介）

大橋保育園児が凧作り

二月十三日、大橋保育園の年長組の園児七人が、同月に開かれる凧揚げ大会で揚げる凧作りをしました。

園児は、地元の凧作り名人に教えてもらいながら、自分たちで絵を描いた三〇センチ四方の紙に、骨となる竹を取り付け、凧の形を作っていました。その後、名人が仕上げをして完成した凧を、園児は、「大会を待ちきれない」と園庭でさっそく空に揚げていました。



名人の仕上げを見つめる子どもたち

香北町にも献血日の告知看板が登場

保健福祉センター香北西側の国道一九五号線沿いに、献血の告知用看板がお目見えしました。

これは、土佐山田ライオンズクラブ（大橋明美会長）が「献血事業の推進に役立ててほしい」と、市に寄贈したもので、一月二十九日に設置されました。

県内では深刻な血液不足が続いており、健康づくり推進課では「今後の献血PRに活用させていただきます」と感謝を表していました。

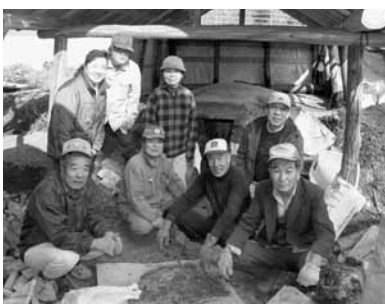


国道沿いにお目見えした看板

炭焼き窯を交流のシンボルに

土佐山田町宮ノ口の地域住民が、地域の交流のシンボルにと炭焼き窯を作りました。同地域の有志ら七人程のグループで気運が盛り上がり、一カ月かけて作りあげたもので、一月二十四日には初めての窯出しが行われました。

窯の側には囲炉裏のある小屋作りも進められ、「高齢者が多いこの地域で、しずえ切り（田畑にかかる木の伐採）の手伝いも計画している。炭の材料の調達も兼ねたボランティアができるのでは」と有志らは、窯を中心にした交流の話に盛り上がりつつありました。



炭焼き窯を前に

喫茶で学生と地域の

交流の場づくり

高知工科大学生が商店街の空き店舗を活用した喫茶店をオープンしました。

土佐山田町東本町五丁目の喫茶店『Café Smith』（カフェ スミス）は、大学祭で出店した喫茶をきっかけに八人の工科大学生が二月から土日のみの開店で始めたもので、取材当日もパソコン教室で教えた子どもたちや、近くの住民らが

訪れ、落ち着いた雰囲気の中でひとときを過ごしていました。

学生メンバーの一人である難波康典さんは、「学生と地域の交流の場になればと思う。後輩にも引き継いでいってほしい」と思いを語っていました。



落ち着いた雰囲気の店内

蕪生米を使つた

米粉パンの販売開始

地元でとれたものを地元で美味しく食べる『地産地消』の取り組みとして、蕪生の里美良布直販店（香北町美良布）で、蕪生米を使つた米粉パンの販売が始まりました。

米粉パンは、米を粉末状にしたものを練りこんで作つたパンのことで、米の消費拡大の一環として全国的に広まっており、小麦で作つ

たパンと比べ水分含量が多く、「シットリとしてモチモチした食感」「噛むほどに米の甘さを感じられる」と米の特長をいかした新たな主食としても注目されているものです。



皆さんもご賞味ください

同直販店では、毎週月・水・金曜のパンの日、火・木曜のお菓子の日に米粉を使った食パン、カステラ、マドレーヌなどが販売されています。

高齢者交流の場

づくりで情報交換

高齢者の閉じこもりを防ぎ、要介護状態を予防するため、今年度モデルとして市内六地区で開かれた『高齢者の交流の場づくり』の情報交換会が二月六日、ブラザ八王子で開かれました。モデルの六地区と、自主開催で交流の場づくりに取り組む山崎（物部町）と柚ノ木（香北町猪野々）の二地区の参加者や関係者ら約四十人が参加した会では、



各地区の情報を交換

各地区それぞれの取り組み内容などの発表が行われました。工夫した取り組みを参考にしようとする参加者は熱心に耳を傾けていました。

保育園に
鬼がやって来た！

節分の日を前にした二月三日、市内の保育園では、節分行事が行われ、各園に鬼が登場しました。保護者などが扮した鬼を見て驚いたり、泣く園児もいました。みんなと一緒に豆まきをし、「丈夫な体になるように」と願いをこめ、年の数だけ豆を食べ、行事を楽しんでいました。



最後には鬼さんと仲良く